

GSV-A グループスーパービジョンA

講師	渡部 律子 先生 日本女子大学名誉教授 ※1		
内容	グループスーパービジョン		
受講要件	東京都医療ソーシャルワーカー協会正会員もしくは準会員 成果編集提出 (P1 参照)		
対象	実務経験 3 年以上		
受講料	無料 (東京都受託事業のため)		
開催形式	Zoom オンライン 計 10 回		
日時	① 2024 6/8	⑥ 11/9	第 2 土曜日 14:00-16:00
	② 7/13	⑦ 12/14	
	③ 8/10	⑧ 2025 1/11	
	④ 9/14	⑨ 2/8	
	⑤ 10/12	⑩ 3/8	
認定ポイント	日本医療ソーシャルワーカー協会認定医療社会福祉士認定講座 26P (欠席・遅刻・早退等からポイント発行に至らないことがあります)		
定員	9 名		
テキスト 参考文献	1. 「高齢者援助における相談面接の理論と実際」 渡部律子 2011 年 医歯薬出版 2. 「基礎から学ぶ気づきの事例検討会」 渡部律子 2016 年 中央法規 (受講までに出来れば目を通していただきたい書籍)		
申込期間	2024/5/1 (水) - 6/2 (日) 先着順、未受講者優先		

講師より本講座のご案内

「新たな視点から実践を見つめなおす」

私は実践現場で自分の成長を実感できず悩んだ時にスーパービジョンが役立つ経験をしました。スーパービジョンを通じ、経験を言葉にすることと固定観念とは異なる視点でケースを捉えなおす重要性に気づきました。クライアントに「役立つワーカー」になるとは、ただ言いなりになることではありません。最低限習得しなければならない知識・スキル基盤がありますが、その基盤をクライアントの多様性にあわせて応用するためにもスーパービジョンは欠かせません。

この講座におけるグループスーパービジョンの方向性と進め方

メンバーの力の活用、民主的な関係性、多面的・統合的アセスメント、建設的な思考の交流、今後使用できる知識・スキル基盤と思考の枠組み提供

1. 講師がスーパーバイザー(=パイザー)の役割をとり、全員がセッションに参加して積極的に自身の考え、疑問を述べる「ピア・グループ(同僚間)・スーパービジョン(=GS)」の形式をとりいれます。
(「気づきの事例検討会」第3章第3節「8つの事例」の1例にあたることで手法をイメージできると思います)
2. 第1回: オリエンテーション。メンバー同士を知る。講座の進め方の説明、資料提供。
3. 第2回以降: 「ケースの報告様式」を活用し、毎回1名が提示する事例についてGSセッションを実施する。
4. パイザーとスーパーバイザーの関係性はカデューシンらが提唱する「民主的な関係」を基本にします。
5. 「多面的・統合的」で長期的に使えるアセスメントができそこから支援法を導き出せるワーカー養成を目指します。
クライアントと、それを取り巻く環境、援助(フォーマル・インフォーマルサポート)関係、所属組織で提供可能な援助の可能性と境界等をしっかり見つめ直し、単なる解決策ではない、援助方針決定の際の根拠などを含むケースの全体像の理解をゴールとします。
6. 知識・スキルの基盤、GS参加に必要な「思考の枠組み」などは必要に応じ資料提供いたします。
スーパービジョンで、どこに焦点を当て課題を深めていけば良いかなどを理解するためには時間がかかります。
そこで段階を追って少しずつ学びを深めていきます。少しずつパイザーである私の関与を少なくし、最終的には、受講生のみなさんがピア・GS実施の基本を身に付けられることを目指したいと思っています。
皆さんと一緒に学ぶことを楽しみにしています。

※ 1: 1978 年関西学院大学大学院修士課程修了。相談援助実践を経て留学。1983 年米国ミシガン大学社会福祉学修士 (M.S.W.) 1988 年心理学修士。1990 年哲学博士 (Ph.D. 専攻: 社会福祉学・心理学) 米国臨床実践。NY 州立大学バッファロー校、シカゴ大学社会福祉系大学院にて教鞭。1995 年関西学院大学助教授。1999 年同大教授。
2011 年日本女子大学教授。兵庫県介護支援専門員協会「気づきの事例検討会」開催。対人援助職向け連載執筆ソーシャルワーカー、ケアマネジャー向け研修グループスーパービジョン等多数実施。